

令和7年12月3日

潮江地区

地区別事前復興まちづくり計画 ワークショップ資料

目 次

ワークショップの進め方	P2
第1回ワークショップの振り返り（ワーク1・ワーク3）	P4
意見交換：復興の目指すべき姿＝ビジョンを考えよう	P7
第1回ワークショップの振り返り（ワーク2）	P10
意見交換：修正復興パターン（案）の提示	P19
ワーク4：速やかに復興するために必要なことってな～に？	P20
次回開催のご案内	P21

ワークショップの進め方（全体）

第1回ワークショップ (計100分（発表時間込み）)

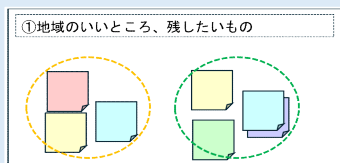
- ・事前復興まちづくり計画の目的
- ・地区の現状と課題を説明（20分）

ワーク1
(30分)

地区のいいところ・残したいもの
困っていること

Point

被災後の「ビジョン=目指すべき姿」
へつなげる



- ・復興パターンの概要説明（10分）

ワーク2
(30分)

復興パターンについて感想

Point

復興パターンに対する意見を述べて
もらい、第2回目に修正案を提示

復興パターン	1案 移転対応案	2案 現地再建築案
ポイント	・被災地区の基本な被害が想定される箇所の 高台移転によるコミュニティの維持 （移転先は合併後開発地と工業や中学校開 校予定地）	・住み続けられる復興を基本とするコミュニティの維持 ・高台な被災地区が想定される地区では原則的 に、津波安全性の高い住宅地を再 建
活用事業	・防災施設移転促進事業 ・被災地区の公園事業 （公園整備）	・土地活用整備事業
メリット	・安全な場所への移転による、生命や財産を 守ることができる ・国など外部支援が受けられる	・復興後の生活環境、コミュニティの再構築 ・防災施設等の安全性向上 ・土地利用の最適化（集約化）が図れる
デメリット	・生活環境の悪化 ・交通の不便化 ・移転先地域の土地の確保 ・コミュニティの分離、自然環境の悪化	・住宅形成の長期化 ・復興の長期化 ・減少など土地の負担
期間比較	○	△
費用比較	○	△

- ・まとめ（10分）

目標

自分の地区の特徴を知ってもらい、
復興パターンの意見をもらう

第2回ワークショップ (計100分)

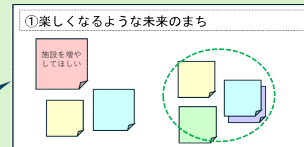
- ・第1回ワークショップ振り返り（ワーク1）
- ・第1回ワークショップ振り返り（ワーク3）（5分）
（潮江南、潮江小学校区共有）
- ・目指すべき姿(案)の提示（5分）

ワーク3
(20分)

楽しくなるような未来のまちを想像する

Point

- ・ゾーニングに対する意見を引き出す



- ・目指すべき姿(案)

意見交換

(20分発表込み)

- ・第1回ワークショップ振り返り（ワーク2）
- ・修正復興パターン案の提示

意見交換

(説明10分 ワーク15分 発表5分)

ワーク4
(15分)

速やかに復興するために必要なこと

Point

- ・被災後の自立再建を意識してもらい
- ・復興でのすべきことを知ってもらい
復興中の活力につなげる

- ・まとめ（5分）

目標

復興ビジョンを取りまとめ、修正復興
パターンの意見をもらう

第3回ワークショップ (計100分)

- ・第2回ワークショップ振り返り（20分）

- ・最終案の提示
（修正復興パターン・ゾーニング）

意見交換

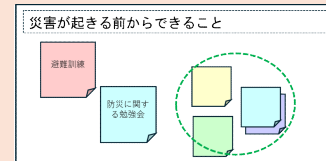
(30分)

ワーク5
(30分)

災害が起きる前からできること

Point

- ・防災意識の向上
- ・地域での防災活動の啓発



- ・まとめ(20分)

目標

復興パターン・ゾーニング図の取りまと
め

地区別事前復興まちづくり計画とは？

被災後、早急に復興が進められるように
復興パターン・土地利用の選択肢をあらかじめ用意しておく

次世代へバトンタッチ!!



被災後

被災状況に応じて復興パターン・土地利用を選択

ワークショップの進め方（第2回）

①第1回ワークショップ振り返り(ワーク1)

②第1回ワークショップ振り返り(ワーク3:潮江、潮江南)(18:35～ 18:40)



目指すべき姿(案)の提示(18:40～18:45)



③ワーク3:楽しくなるような未来のまちを想像してみましょう。(18:45～ 19:05)



④意見交換:地区の目指すべき姿＝ビジョンについて(19:05～ 19:25)



⑤第1回ワークショップ振り返り(ワーク2)

意見交換:修正復興パターンについて(19:25～19:55)



⑥ワーク4:速やかに復興するために必要なこと(19:55～ 20:10)

⑦まとめ(20:10～ 20:15)

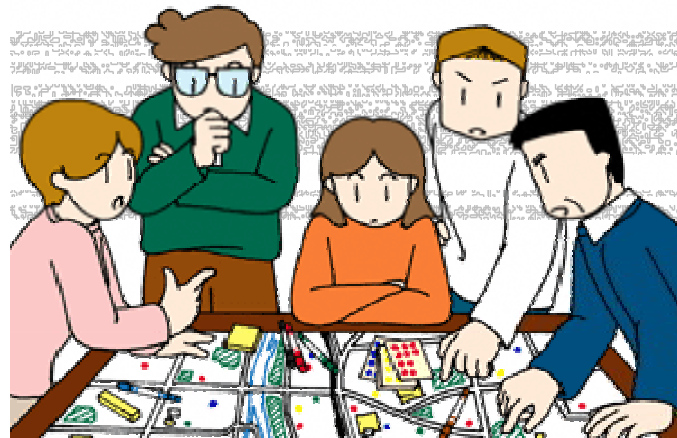
第1回ワークショップの振り返り（意見まとめ）

テーマ1

潮江の良いところ・残したいもの、普段の生活で困っていることについて、意見を共有しましょう。

テーマ2

復興パターン2案について意見を共有しましょう。



第1回ワークショップの振り返り（意見まとめ）

テーマ1 潮江の良いところ・残したいもの、普段の生活で困っていることについて、意見を共有しましょう。

—— 中学生意見

項目 \ 地区	良いところ・残したいもの	困っていること
安全安心な まちの再生	旧南高校は避難所とし利用できるため、残してほしい 筆山などの山が近いこと、避難路が近くにある	防災無線が聞こえない 津波被害のイメージがあり、地域を離れる人が多くなっている 津波避難ビルがない地区がある 狭い生活道路が多く、家屋が密集する場所がある
住まいと 暮らしの再建	公共交通（バス・電車）などの利便性が良い 生活利便施設（スーパーなど）が多く立地している 図書館・県民体育館等の公共の場が多い 教育施設（保育、学校）が多くあり、子育てしやすい 医療機関が充実している 坂道が少なく、高齢者が移動しやすい 山・川・海へのアクセスがよい 福祉活動が活発である 子育て支援が充実している 自然豊かである 中心地へのアクセスが良い	個人が所有する水道の枝管が多く、復旧の際には時間がかかる 交通量が多い スポーツ施設が少ない 公園などの公共施設の管理状態が悪い バス（公共交通）の路線や便数が減少して不便 若者の遊び場がない
なりわいの再生	企業が多い ●特産物潮江菜を残したい	港の賑わいがなくなって、寂しくなった
歴史・文化の 保全と継承	梅ヶ辻よさこい演舞場を残したい 潮江天満宮のわめけ様などイベントが多い 子供が遊ぶ公園が多い 自由民権記念館は民主主義の象徴なので残してほしい 日本一古く、路線延長も長い路面電車を残したい	竹島川沿いの雑草が不衛生
地域共生社会の実現	地域の繋がりが強い 防災意識が高い 保育園同士の繋がりが強い 地域コミュニティが強いこと、地元の行事が盛んで賑わっている	町内会の高齢化 人口減少による、次世代との繋がりが希薄化している ●コミュニティが狭い

第1回ワークショップの振り返り（意見まとめ）

テーマ3

楽しくなるような未来のまちを想像してみよう。

中学生意見

凡例

- 行政界
- 対象区域
- 居住誘導区域

高知港から鏡川沿いにサイクリングロードを作りたい



市道349号と若松町を繋ぐ橋を架けたい



暮らしを楽しめるまち

- ・路面電車終点到パークアンドライドを整備したい
- ・ペットと同行できる施設を作りたい
- ・公共交通の利便性を上げたい
- ・地域の人が気軽に集まれる施設を作りたい
- ・地区の中心地に子供が集めれる場所を作ってほしい（公園、水族館等）
- ・地域の交流や住民の結びつきを強めたい
- ・できるだけ早く復興したい
- ・清掃活動を活性化させたい
- ・地域の防犯対策を強化したい
- ・防災訓練を頻繁に行い、防災意識を高めたい



中学生の意見

- ・災害に強いまちを作ってほしい（地震と津波の両方）
- ・自然豊かなまちを整備してほしい
- ・若者向けの場所や店を作ってほしい
- ・道をもっと広げてほしい



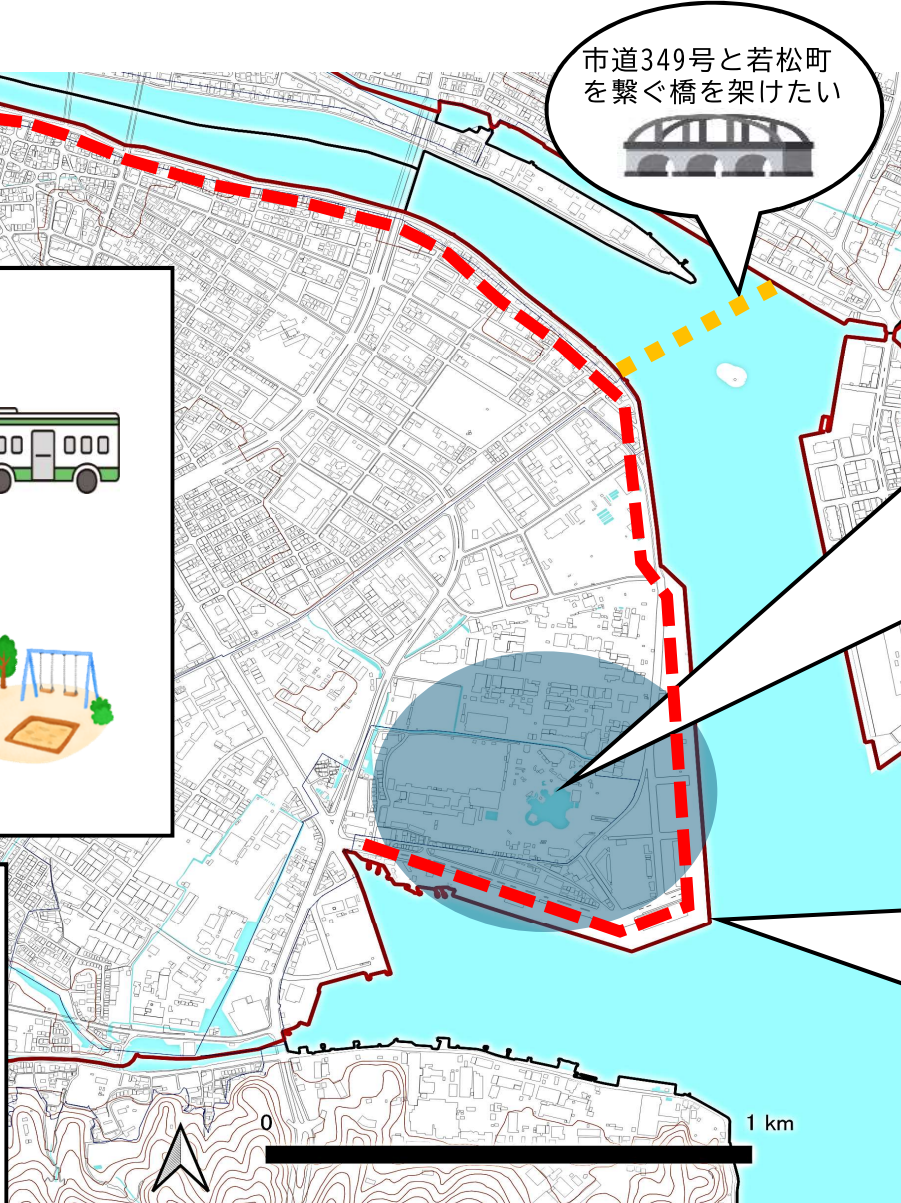
わんぱーくこうち 周辺

- ・南中高跡地を活用したい
- ・スポーツ施設を作ってほしい（サッカースタジアム等）
- ・ひろめ市場のようににぎわい施設を作ったらかうか
- ・避難場所となる高い建物を整備したらかうか



高知港

- ・高知-大阪間のフェリーを復活させたい
- ・高知港へのクルーズ船寄港を誘致したい



意見交換：復興の目指すべき姿＝ビジョンを考えよう

安心安全なまち再生

- ・災害リスクの低減と日常の安全・安心の確保

キーワード

津波避難ビルの指定
狭い生活道路の解消
家屋密集の解消



住まいと暮らしの再建

- ・多様な世代が暮らせる住環境

キーワード

高い生活利便性
文教施設・教育施設の充実
公共交通の充実



なりわいの再生

- ・地域産業の活性化と賑わいの創出

キーワード

地域を代表する企業の立地
伝統の潮江菜
港の賑わいの復活



潮江菜

歴史・文化の保全と継承

- ・地域固有の歴史・文化資源の保全と継承

キーワード

梅ヶ辻のよさこい祭り
歴史ある路面電車
地域の特色あるイベント



地域共生社会の実現

- ・世代を超えた地域コミュニティの維持・発展

キーワード

地域コミュニティ
高い防災意識
次世代につなぐコミュニティ



意見交換：復興の目指すべき姿＝ビジョンを考えよう

○ワークショップをもとに考えたビジョン案

案1（第1回ワークショップで提示済み）

『つながる安心 自然と共に生きるまち』

交通ネットワークの整備や都心への近接性を活かし、**交通の利便性と人々のつながり**を確保するとともに、災害に対して安全安心で豊かな自然環境と親水空間を大切にしたまちを目指します。

案2（ワーク1の意見を踏まえた案）「防災」と「コミュニティ」を主軸とする案

『深まる絆 災害にも強く、安心な暮らしを未来へつなぐまち 潮江』

地域の絆を育み、共助力と防災力を高めながら、誰もが安心して暮らし続けられる**災害にも強い**潮江を未来へ受け継ぐ、持続可能なまちを目指します。

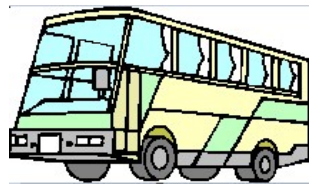
案3（ワーク1の意見を踏まえた案）「自然」、「都市」、「歴史」を主軸とする案

『自然と都市が調和し、歴史の魅力に溢れたまち ～山・川・海と共に歩む潮江～』

都市の利便性と山・川・海の豊かな自然が調和する潮江で、受け継がれてきた歴史や文化資源を生かしながら、**自然・都市・歴史が共に輝く魅力ある暮らし**を創るまちを目指します。

さあ，みんなで話し合ってみよう！

ワーク3：楽しくなるような未来のまちを想像してみよう！

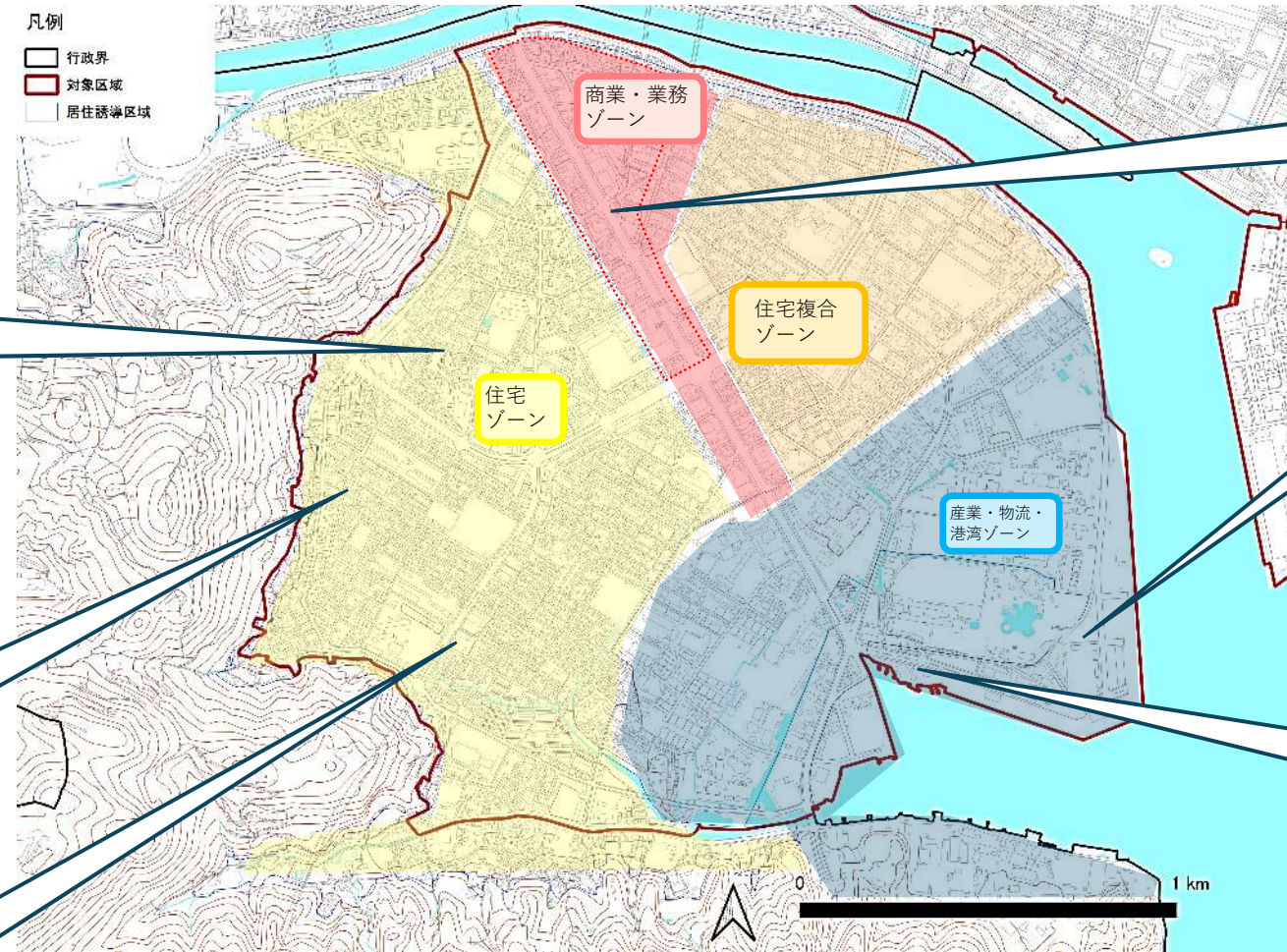


バス便増やしてほしい



みどりや花を見たい

丈夫な家に住みたい



津波浸水深が下がって安全

アザラシショー



海辺でアイス食べたい

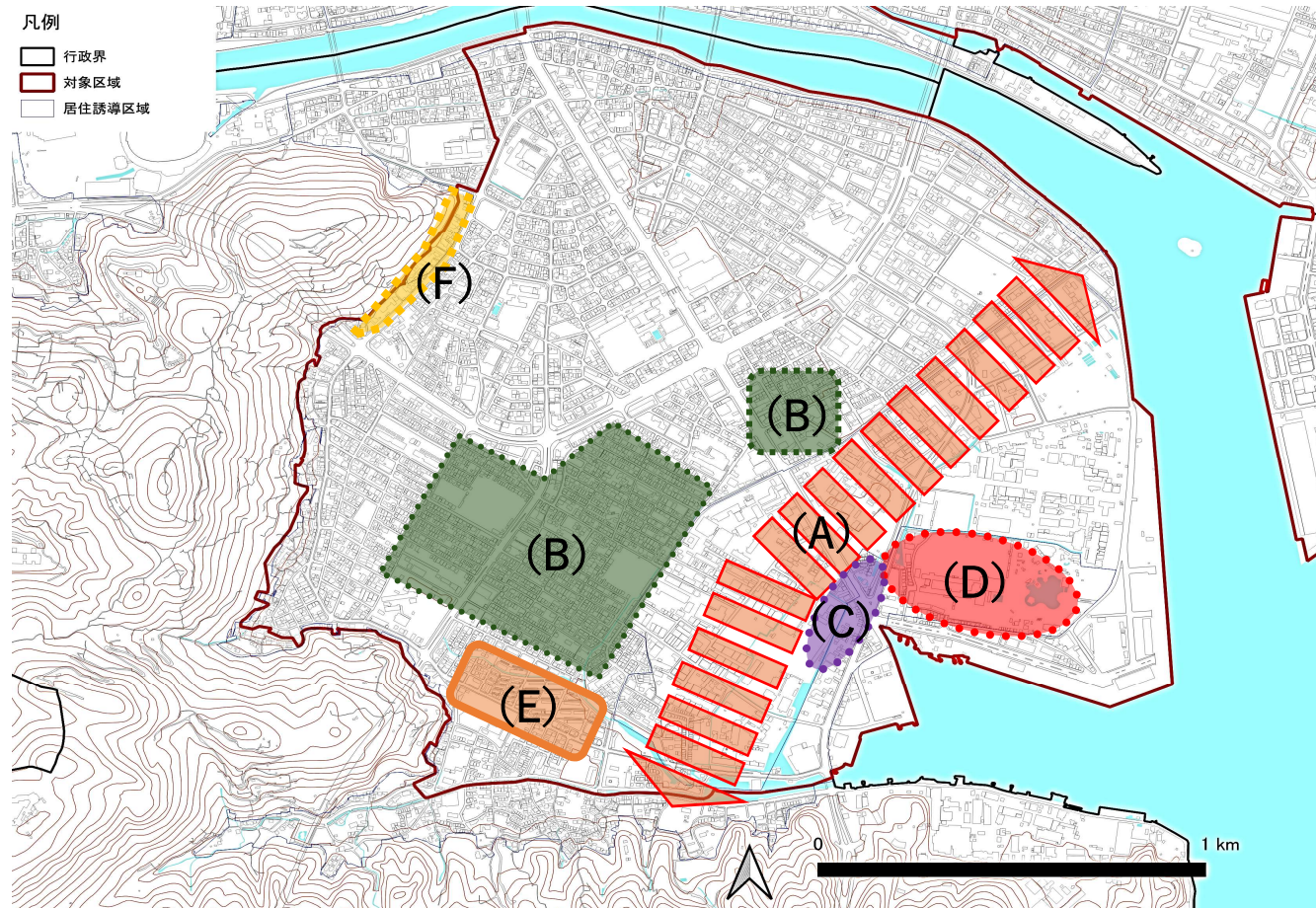


第1回ワークショップの振り返り

テーマ2 復興パターン2案について意見を共有しましょう

【第1案】二線堤形成案

●広範囲にわたる浸水深1～2mエリアの津波安全性の向上対策として二線堤を整備



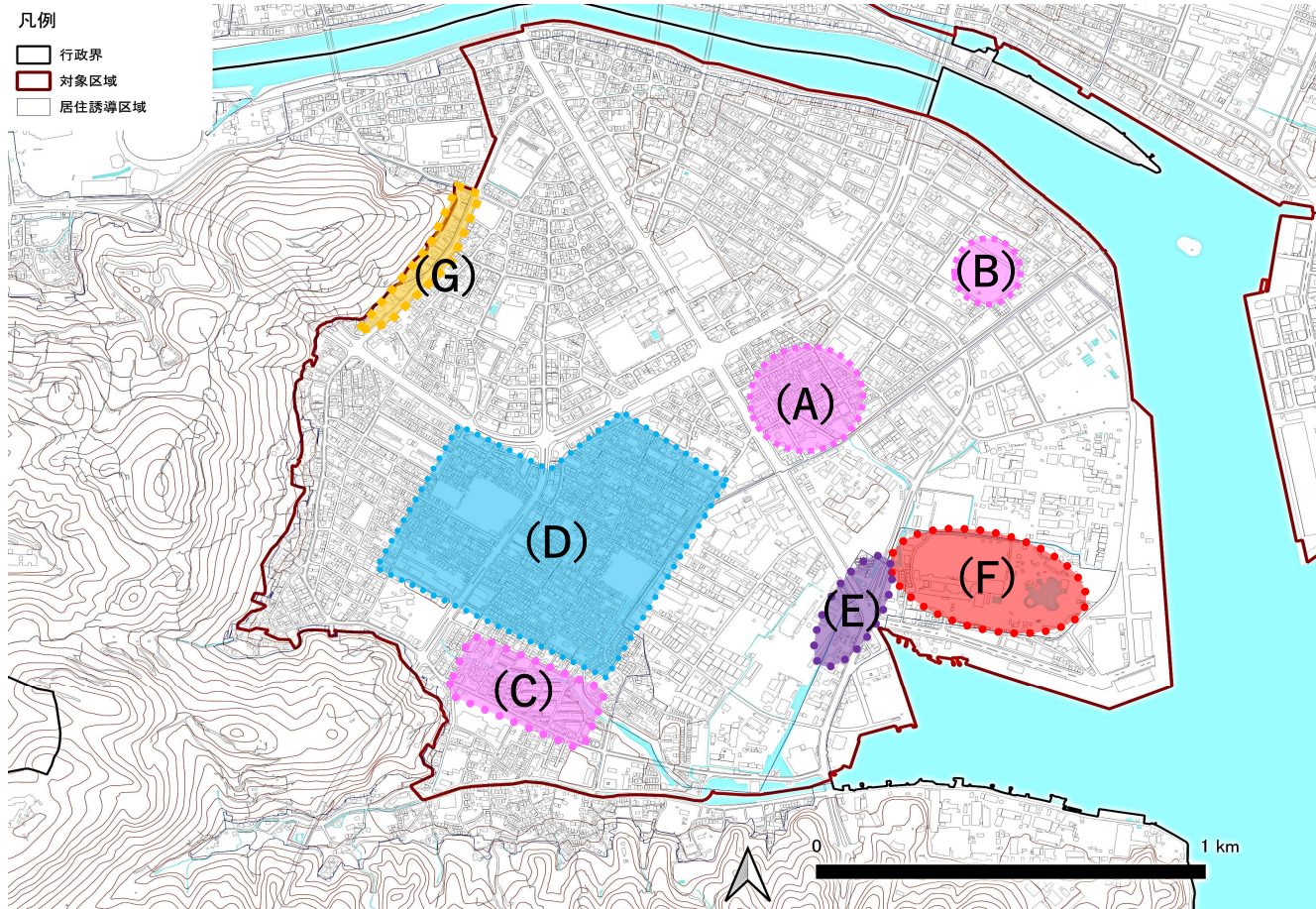
- (A) 二線堤
- (B) 区画整理事業
道路基盤整備検討
- (C) 建築制限による誘導
1階部分の非居住化
- (D) にぎわい形成
にぎわい施設の立地誘導
- (E) 市営住宅有効利用
空き室の利用を検討する
- (F) 土砂災害対策

第1回ワークショップの振り返り

テーマ2 復興パターン2案について意見を共有しましょう

【第2案】防災拠点形成案

- 2m超エリアは嵩上げや高層建築物等の拠点を整備
- 1～2mエリアは嵩上げ+区画整理



- (A) 防災拠点+嵩上げ（賑わい+居住）
共同化、再開発事業による高層化
- (B) 防災拠点（萩公園：高台整備）
津波避難機能の整備
- (C) 防災拠点（市営住宅有効利用）
空き室の利用を検討する
- (D) 嵩上げ+区画整理事業
道路基盤整備検討
- (E) 建築制限による誘導
1階部分の非居住化
- (F) にぎわい形成
にぎわい施設の立地誘導
- (G) 土砂災害対策

第1回ワークショップの振り返り（意見まとめ）

テーマ2 復興パターン2案について意見を共有しましょう

中学生意見

【第一案】

- ・小学校は同じ場所に復興するのか
- ・第1案にも防災拠点が必要なのではないかな
- 津波の被害から守られる範囲が広くて良い
- ・わんぱくこうちと同じようにぎわい施設が必要だと思う
- ・鏡川沿いの堤防の嵩上げをしようか
- ・二線堤外に避難場所を整備してほしい
- ・復興期間が2案より短くて良い
- ・高齢者が津波から避難しなくてもよくなるため、1案の方が良い
- ・利便性が下がってしまうのではないかな

（二線堤に対する意見）

- より多くの人を守ることができる
- ・地域が分断されるのではないかな
- ・二線堤の場所をできるだけ海側へ寄せて欲しい
- ・南北の往来はどうなるのか。
- ・二線堤がイメージしづらい
- ・二線堤の側道や接続の整備が必要となるのではないかな
- ・二線堤の上を避難できる歩道にしてほしい
- ・二線堤より外側の人たちを守るべき（内側へ移転など）
- ・二線堤より外側の方は引き続き居住するのかな
- ・電車通りはどうなるのか
- ・二線堤の位置の検討が必要なのではないかな

【第二案】

- ・住民の合意形成に時間がかかりそう
- ・区画整理をする範囲を追加してほしい（潮新町1丁目付近）
- ・地震による津波だけでなく、水害にも効果を発揮しよう
- ・防災拠点として建物を建てた場合、耐用年数の問題がある
- 1案と比べると、明確な避難場所があるのは良い
- ・萩公園周辺をにぎわいエリアにするのはどうか
- ・防災拠点のイメージがしづらい
- ・一度津波による被害を受けた場所には、戻らないのではないかな
- ・萩公園を避難できる場所にするのは良いと思った

【共通】

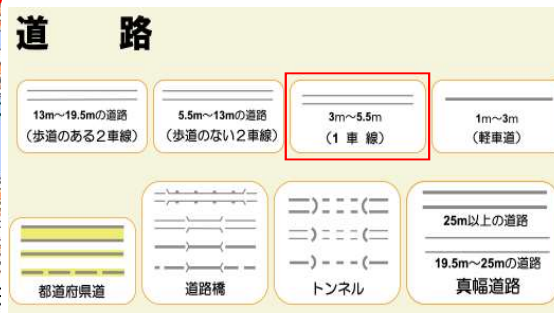
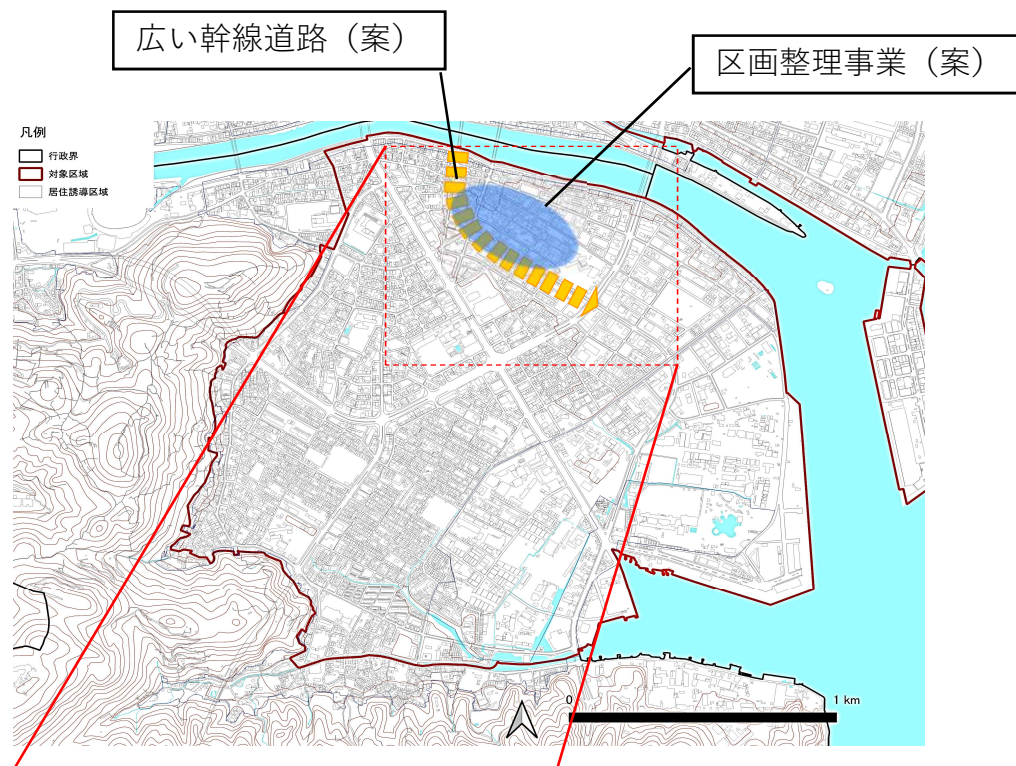
- ・1案と2案を合わせた案が良い
- ・百石町周辺を区画整理するのは良い
- ・人口が減少する将来を考えてコンパクトシティにするとよい
- ・区画整理の合意形成が難しいのではないかな
- ・区画整理は元地の宅地面積が少ない所が多く、減歩を行うと建物が建築できないため、災害公営住宅も必要になる。

第1回ワークショップの振り返り（意見まとめ）

意見に対する回答

	No.	意見まとめ	回答
区画整理	1	役知町及び潮新町一丁目周辺で家屋が密集し、狭い生活道路となっている場所があるため、区画整理等を行って改善してほしい。	被害想定や過去の背景などを踏まえ、想定する復興パターン（復興事業）として提示するものではありませんが、面的に甚大な被害が発生した場合は、周辺の区画整理事業と合わせた一体的な道路整備（拡幅）は考えられるため、ご意見として承ります。 資料-P14
道路のみ	2	復興に合わせて、新たな幹線道路を整備してほしい。	
にぎわい	3	萩公園周辺をにぎわいのエリアにしてほしい。	第二案防災拠点形成案では、萩公園内に高台を整備し津波から避難できる防災拠点を計画しております。公園の日常管理については、住民ボランティアの公園愛護会などにより管理されておりますが、高齢化等により維持が困難な公園が市内でも多くなってきております。民間の資本を活用して、近隣住民、公園施設利用者等を対象とした、飲食・賑わい空間の施設を整備し、収益によって避難空間等（公園）の維持管理を行う手法もございますので、ご意見として承ります。 資料-P15 資料編-P12、P13
		二線堤の外側（わんぱーくこうち周辺）をにぎわいエリアにしてほしい。	わんぱーくこうち周辺は、過去に大阪と高知を結ぶフェリーが就航し、多くの人で賑わっていましたが、フェリー航路の廃止や、県立南高校の統廃合等により、かつての賑わいが失われつつあります。高知港長期構想にも示されておりますとおり、遊休化した施設等有効活用し、内港地区の賑わい空間の創出を図っていきたいと考えておりますので、ご意見として承ります。 資料-P15 資料編-P12、P13
二線堤防	4	二線堤の位置を海側にしてはどうか。	計画する二線堤の位置については津波の波力（波の力）を減衰させることを目的として、内陸部の潮新町線等を計画しておりますが、東日本大震災の被災地でも防潮堤と二線堤が近接して施工された事例がございます。原案を含め、3案作成しました。資料をご覧ください 資料-P17 資料編-P14
		二線堤が出来た場合の堤外地に住んでいる方はどうなるのか。	二線堤の場合は、「堤外地」（堤防の外側（海側））は災害危険区域として指定され、原則として建築制限を受けるエリアとなります。発災後の復興計画を策定する際は、可能な限り地域のコミュニティを分断しないような、区域指定に配慮し、居住される住民の方には丁寧な説明や、ワークショップを開催し移転等に対する意向をお伺いすることになります。
復興パターン	5	1案と2案を合せた案とした方がよい。	二線堤（1案）と防災拠点（2案）を整備した場合、合意形成の一層の長期化や費用の増加が見込まれます。復興パターンに関するご意見として承ります。 資料-P16 資料編-P19

意見に対する参考資料（区画整理事業範囲の追加等）



➤ 国土地理院地図では想定される区域の道路幅はおおむね 3m~5.5m となっている。

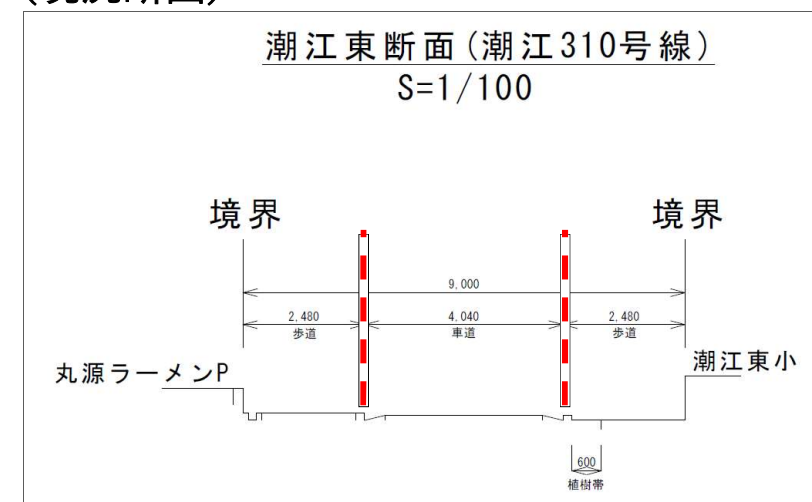
（現況写真）

狭い生活道路＝狭あい道路（主に幅 4 m 未満の道路）



- ✓ 現状の道路幅は約4mと広くはない。
- ✓ 車同士のすれ違いはやや困難。
- ✓ 被災状況に応じた一体的な整備（区画整理及び道路整備）

（現況断面）



テーマ2 復興パターン2案について

意見に対する参考資料（萩公園周辺をにぎわいのエリアにしてほしい。）

事例紹介 にぎわい施設の誘導



○公園（防災拠点）の整備・維持管理

○フェイズフリーによる防災・賑わい空間づくり

（日常）

近隣住民や公園利用者、周辺施設利用者等を対象とした飲食・賑わい空間等

（非常時「災害時」）

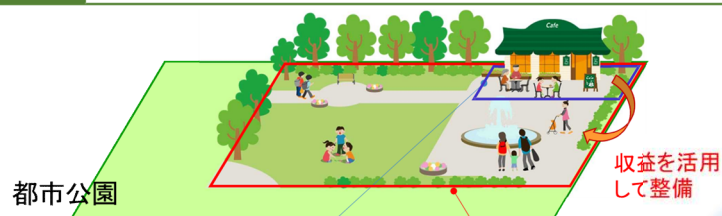
避難交換・設備等としての利用

※「フェーズフリー」とは、平常時と災害時の境界をなくし、平時の生活を充実させることで災害時の生活も充実させるという考え方。

● 公募設置管理制度(Park-PFI)の特徴

- 都市公園において飲食店、売店等の公園施設（公募対象公園施設）の設置又は管理を行う民間事業者を、公募により選定する手続き
- 事業者が設置する施設から得られる収益を公園整備に還元することを条件に、事業者には都市公園法の特例措置がインセンティブとして適用される

条件 園路、広場等の公園施設（特定公園施設）の整備を一体的に行うこと



民間が収益施設と公共部分を一体的に整備

カフェ等の収益施設
（公募対象公園施設）

広場、園路等の公共部分
（特定公園施設）

従前

民間資金

公的資金

新制度

民間資金

収益を充当

公的資金

官民の連携



短期

中期

【潮江地区】

○民間資金も活用した賑わい空間の形成を図り、地域のブランド価値の向上を図る

【潮江地区】賑わい空間の形成



賑わい空間の形成

土電の活用



わんぱくこうちとの連携



完成イメージパース



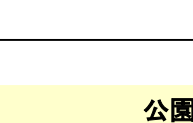
夜の海に浮かぶ灯台のイメージ



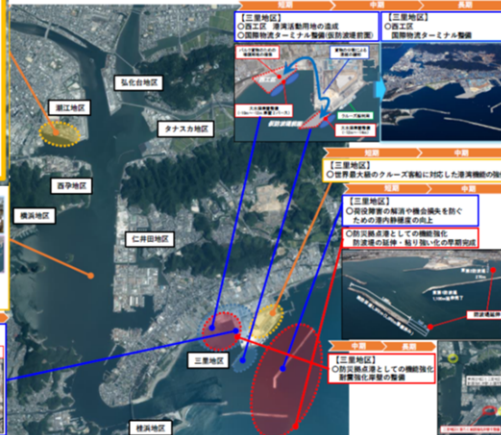
○高知港内における小型船舶ネットワークの構築



【三原地区】
○コンテナ船の大型化に対応した港湾機能の強化
（2000t級～3000t級、200m級～250m級）



高知県の高知港長期構想(令和2年1月16日、高知県)に基づく高知港潮江地区の整備構想を踏まえて、わんぱくこうちと港湾部が連携した賑わい空間として復興を目指すことが検討されます。



出典 高知県の高知港長期構想(令和2年1月16日、高知県)

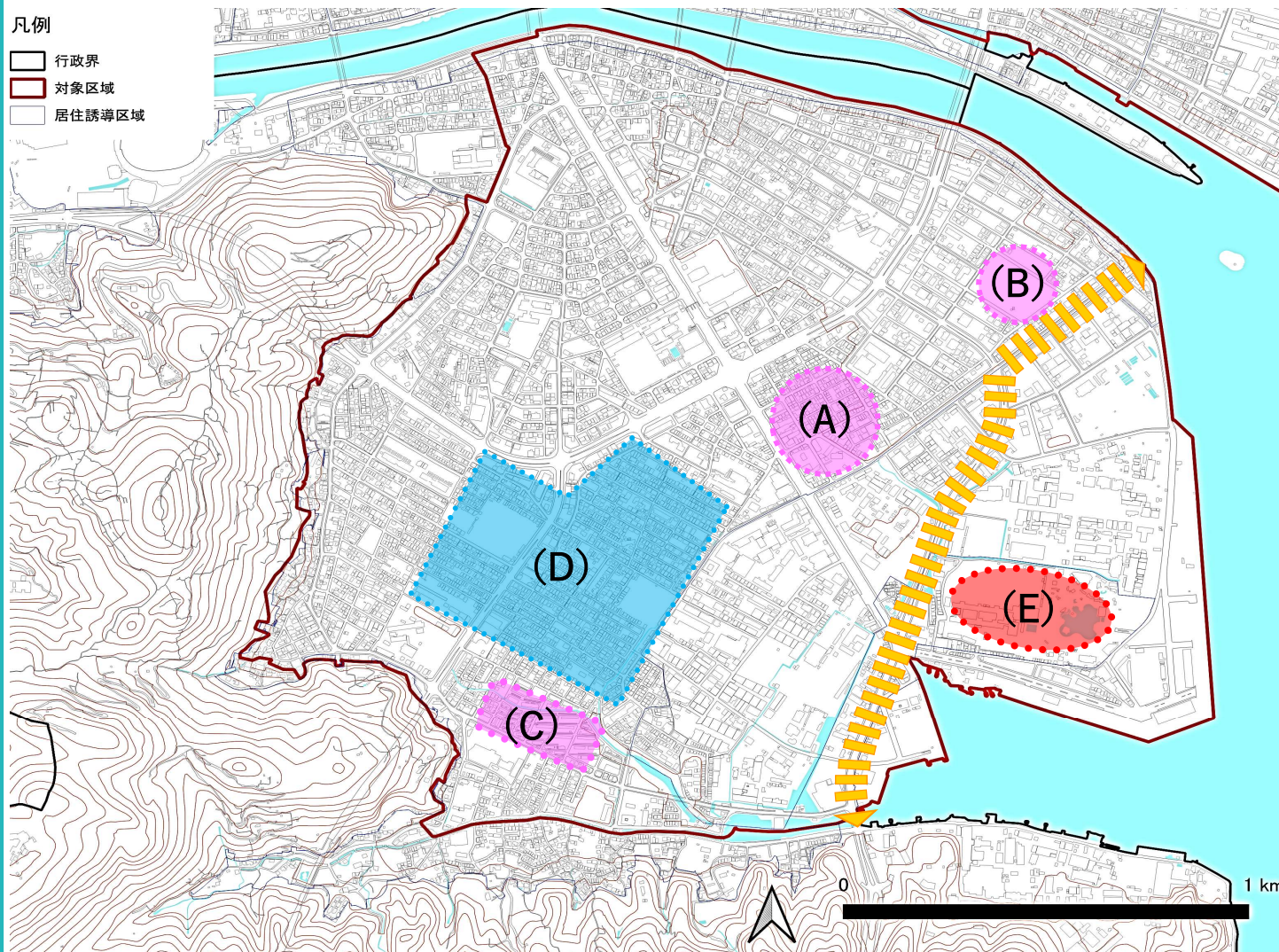
民間事業者のメリット

- ・都市公園内に飲食店や売店等の収益施設を設置できる。
- ・公園空間を利用して自らが設置する施設等一体的にデザインすることで収益の向上や企業イメージの向上につながる。

公園利用者のメリット

- ・飲食施設の充実など利用者向けサービスが向上する。
- ・老朽化した公園施設が更新されることで、利便性・安全性等が向上する。
- ・平時から適切に維持・管理されることで、災害時に防災拠点としての活用がスムーズに行える。

意見に対する参考資料(二線堤と防災拠点を複合)

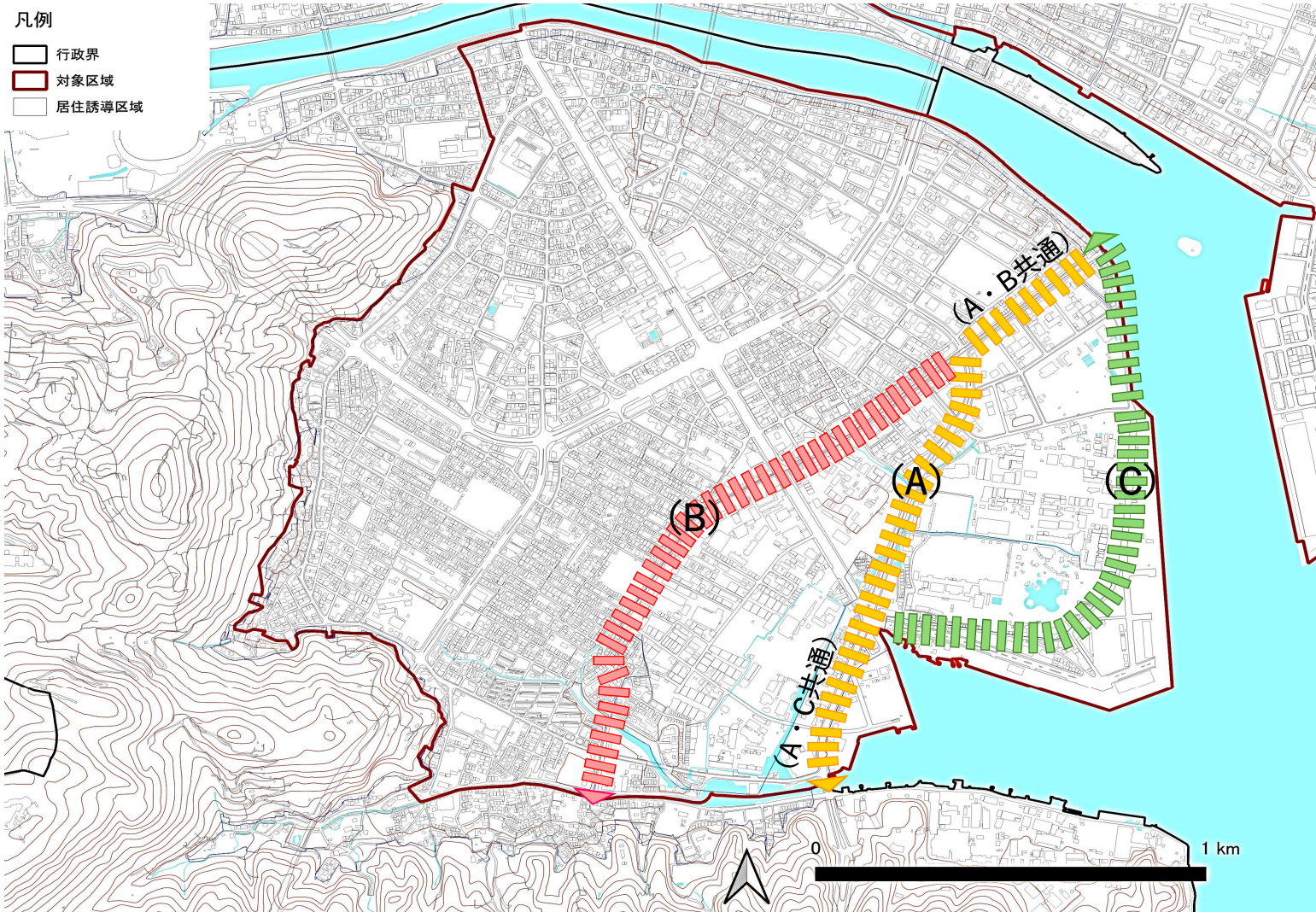


- 二線堤 ▶ 新田町萩町一丁目線～潮新町線ルート
- (A) 防災拠点+嵩上げ（賑わい+居住）共同化、再開発事業による高層化
 - (B) 防災拠点（萩公園：高台整備）津波避難機能の整備
 - (C) 防災拠点（市営住宅有効利用）空き室の利用を検討する
 - (D) 区画整理事業道路基盤整備検討
 - (E) にぎわい形成にぎわい施設の立地誘導

	メリット	デメリット
事業費 各案単独 概ね30～60億		増加
合意形成 関係する主体・事業者		長期化
安全性 津波浸水の低減・安全性	向上	

修正復興パターン

二線堤配置ルート 3 案



- (原案)
(A) 新田町萩町一丁目線～
潮新町線ルート
- (内陸配置案)
(B) 新田町萩町一丁目線～
旧中堤～市道潮江6号
線ルート
- (沿岸部配置案)
(C) 市道潮江355号線～県
道～高知駅高知港線
ルート

潮江地区における二線堤整備形成に関する配置代替案と比較評価

【各案の相対比較 ◎優れている ○やや優れている △やや課題がある ▲特に課題がある】

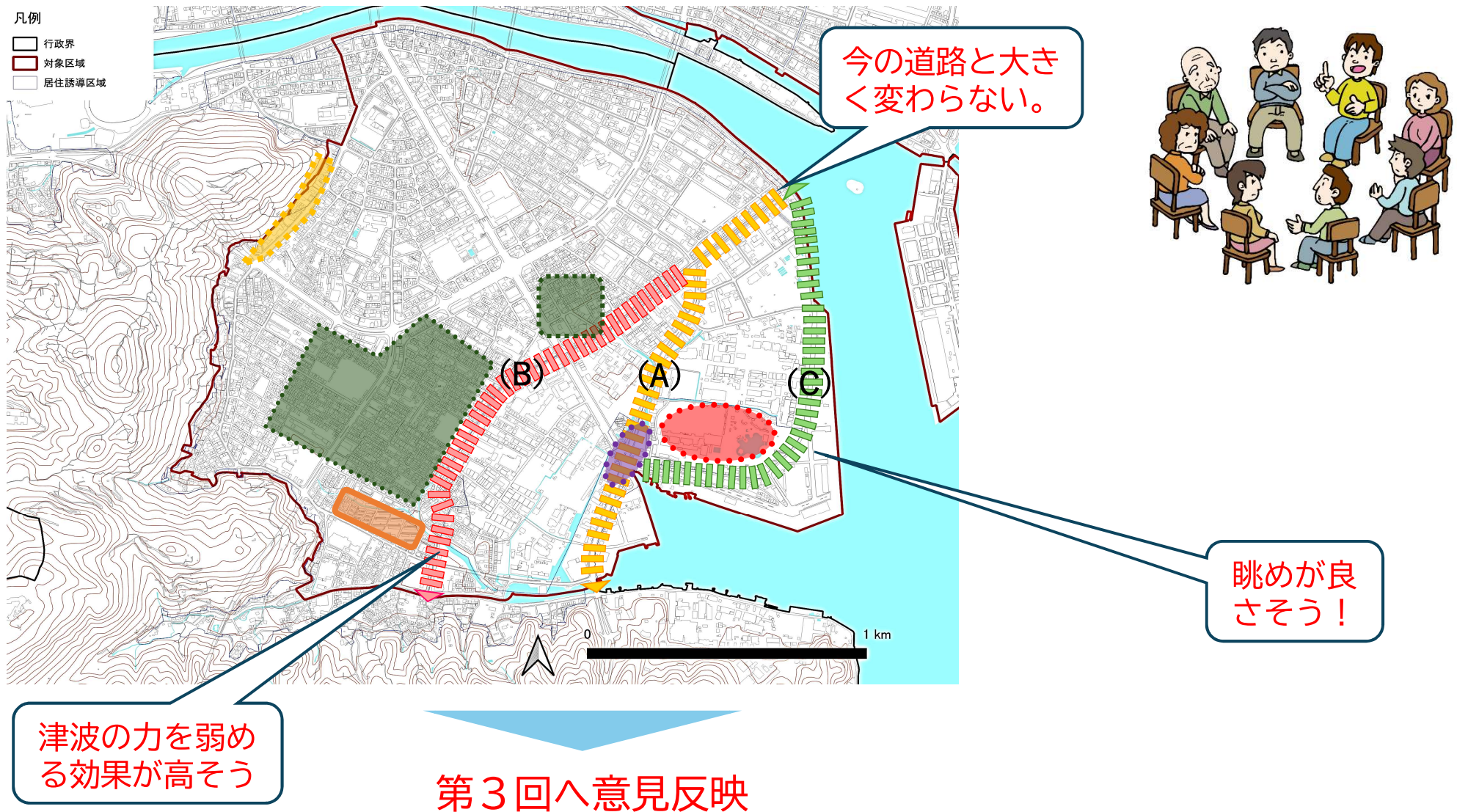
復興パターン	評価項目	A(原案)	B(内陸部配置案)	C(沿岸部配置案)
		(都市計画道路新田萩町一丁目線～潮新町線ルート)	(新田萩町一丁目線～旧中堤～市道潮江6号線ルート)	(市道潮江355号線～県道～高知駅高知港線ルート)
ポイント	市街地の津波安全性の向上 → 都市計画道路等の道路空間を活用して二線堤を形成し、住宅市街地の浸水深の低減	・ 幹線道路中心に二線堤となる空間整備	・ 甚大な津波被害が想定される等復興事業が必要となる地区・区間を中心に整備 (津波安全性の向上は居住誘導区域を主に対象)	・ 臨海部に二線堤となる空間整備 (宅地嵩上げ等により二線堤となる空間を整備)
整備効果	・ 市街地の津波安全性向上	○ (居住誘導区域に加えてとさでん電車両基地など津波安全性向上)	△ (居住誘導区域内に限られる)	◎ (臨港機能に関する区域を除き、わんぱくこうちを含む地区全体の津波安全性向上)
	・ 二線堤とあわせた効果的な復興(甚大な被害が想定される地区における効率的基盤整備・建物再建)	△	◎ (甚大な被害が予想される地区の整備を中心に二線堤形成)	△
	・ 利便性の低下(嵩上げ等により現状の宅地の沿道利用を確保する等の取組)	△	○	○
事業推進	・ 合意形成を含む整備期間 (被災から8年以内が目途)	○	△ (整備期間8年を目途)	△
	・ 関係権利者調整(二線堤整備に関わる関係権利者の負担)	○	△	▲ 【関係権利者の規模や復興事業に関係の薄い(甚大な浸水被害が想定されない)権利者が多い】
	・ 関係機関との事前調整・事業化手続き等	○	△	▲ 【甚大な浸水被害が想定されない地区に関わる内容が大きく復興事業としての取組が難しいことも想定される。】
活用事業 想定費用	・ 二線堤を形成する道路と沿線の宅地・基盤の整備費用等	道路事業を中心とし 約11.8ha 約47億円 ・ その他の想定復興事業を含む計約366億円 ◎	土地区画整理事業を中心とし 約21.4ha 約235億円 ・ その他の想定復興事業を含む計約554億円 △	土地区画整理事業地を中心とし 約23ha 約253億円 ・ その他想定復興事業を含む計約572億円 △
総合評価	※三案の相対評価	○ 【◎1 ○4 △2】	△ 【◎1 ○1 △5】	▲ 【◎1 ○1 △3 ▲2】

※区画整理事業での個人負担については土地の減歩が発生します。

建物については、建物が全壊の場合は被災者生活再建支援制度等、建物が残存している場合は移転補償費等が活用されます。

さあ、みんなで話し合ってみよう！

意見交換：修正パターンについて、意見を共有しましょう。



さあ、みんなで話し合ってみよう！

ワーク4：速やかに復興するために必要なことってな～に？

①住民ができること

例)

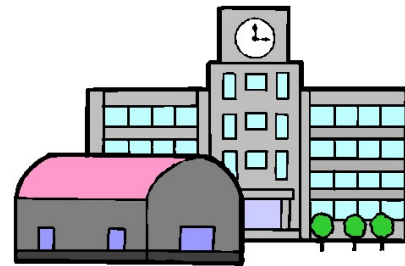
- ・ 自助・公助の意識向上
- ・ 再建の知識向上
- ・ 被害想定 of 把握
- ・ 復興計画の周知
- ・ 相続登記 など



②行政にしてほしいこと

例)

- ・ 公共施設の復旧
(ふれあいセンターなど)
- ・ 観光地を優先して復興
- ・ 商業施設への復旧のための補助金など



第3回でまとめ

次回開催のご案内

第2回ワークショップへのご参加ありがとうございました。
次回もご参加をよろしくお願いいたします。

日時：令和8年3月頃 } 決定し次第、案内を送付いたします。
開催場所：未定

実施内容（予定）

- ・ 第2回の振り返り
- ・ 意見交換1：最終案（修正復興パターン・ゾーニング）について
- ・ ワーク5：災害が起きる前からできることについて、
意見を共有しましょう。
- ・ まとめ

ワークショップのほか、ホームページ上に掲載した意見投稿プラットフォームでも意見を募集していますので、地域の方へのご周知のほどよろしくお願いいたします。